

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「いのちの大切さ」

富山市立東部中学校 生徒 保護者
平成21年11月17日実施

【いのちの先生】

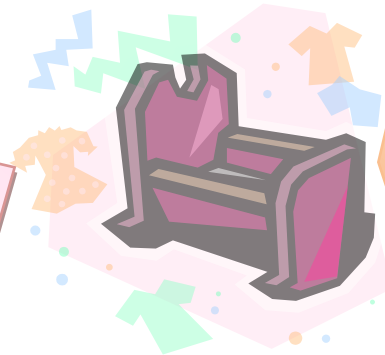
野澤 昌子先生
・たんぼぼ助産院 院長

【授業の概要】

- 1 学年主任・校長先生の話
(導入及び「いのちの先生」の紹介)
- 2 いのちの先生の話
 - (1) 助産師の仕事の紹介
 - (2) いのちの始まり (受精)
 - (3) 胎内での成長の過程
 - (4) 紙芝居「生まれてきてくれてありがとう」



野澤先生の「助産師は生と死に一番近い存在」という言葉がとても印象に残りました。生きることって、当たり前で、いのちの存在の貴重さを実感する機会はそうないと思います。だけど今日の教室で様々な体験をさせていただき、いのちをつないでいく私達の責任と、価値の大きさを知ることができました。



この地球は、かけがえのないいのちがたくさん生きている、奇跡が集まったとても素敵な星だということを知りました。そして私もそんな地球に生きているということが誇りに思えてきました。

今までのいのちについてあまり考えたことがなかったけれども、考えてみると、今当たり前前に生きていることがすごく大切なことに思えてきて、とても感動しました。

生きていると嫌なこともあるけど、生きているからこそ人生の楽しさがあるのだから、1日1日を大切にしていきたいです。

いのちのつながりは、先祖の一つ一つの行動で決まったことなので、もし一つでも違っていたら、私は生まれてこなかったんだと思いました。

お母さんが命がけで産んでくれ、私の成長を見守ってくれたおかげです。その心を忘れず、いのちを大切にしていこうと思います。

野澤先生が見せてくださった赤ちゃんとお母さんの写真を見たとき、写真に写っている家族みんながすごく嬉しそうな温かい笑顔をしていて、見ている私も温かい気持ちになりました。

赤ちゃんを実際にだっこさせてもらったら軽かったけど、すごく重みを感じて、そして温かくて、いのちって不思議なものなんだと思いました。